



TITLE:

文化史上の誇りたる眞の八大偉人
とは誰?

AUTHOR(S):

CITATION:

文化史上の誇りたる眞の八大偉人とは誰?. 天界 1930, 11(117): 98-103

ISSUE DATE:

1930-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161609>

RIGHT:

文化史上の誇りたる 眞の八大偉人とは誰？

去る1930年十月の或る日の夕、英國ロンドンに於いて、當代隨一の文豪バーナード・ショウ Bernard Shaw 翁が、はるばる獨逸からアルバート・アインシュタイン博士を招いて、サザイ・ホテルで盛んな宴を張つた時、翁は持ち前の皮肉と諧謔とを交へつゝ、下記の如く、アインシュタイン博士 禮讃の一大演説をした。

『淑女ならびに紳士諸君！

私が思ひますに、我が此のロンドンは、何と言つても、やはり、世界の一大中心であります。尤も、私はロンドンが將來も永く世界の中心であるとは思ひません。總てのものは、まもなく、米國へ持つて行かれるのでせうから（笑聲）、——しかし、只今としては、確かに一大中心に違ひないのでありまして、大偉人を御迎へすることは敢へて珍らしい出来事ではありません。大政治家、大經濟家、大外交家、大軍人など——それに、時々は大著述家にしても（笑聲）、ザラに御眼にかゝることが出来ます。私共に此うした偉人の聲咳に接し、食卓を共にするのも、決して珍らしいことではありません。實際、ロンドンでは、偉人は一錢に半ダース程もあります。しかしながら、私共が此等の偉人のために祝杯を舉げるに際し、いつも何かの罪を冒すことを覺悟しなければなりません。何か一つは公言してならない秘密があるものです。

『今かりに私がこゝに立つて、ナポレオンのために祝杯を舉げるとしませう。すると、私は勿論、ナポレオンを讚美するために、いろいろなことを申すわけですが、しかし、只一つ、大切な事を、私は其の席で敢て言はないやうにしなければなりません。其れは、即ち、ナポレ

サザア・ホテルの大饗宴にて



アインスタイン博士

ロートシルド卿

ショウ翁

オンが此の世に生れなかつた方が、人類のためには 幸福であつただろうといふ事です。（大笑聲）

『しかし今晚といふ今晚は、———實に一生に 只一度でせう———私共が何も遠慮をする必要はありません。さきに 私が申しました通り、偉人にもいろいろあります。一口に偉人と言つても、凡人の中の偉人もありますし、又、偉人中の大偉人もあります。今晚は此の大偉人が私共の中に居られるのであります。（拍手）

『ナポレオンや、其の類の偉人たちは、要するに 帝國の建設者でありました。しかし、偉人の中には之れ以上の人があります。こうした人々は、帝國の建設者でなくて、大宇宙の建設者であります。しかも此の人々が大宇宙を建設されます場合に、其の手を、決して 地上の人の血で汚しません。（拍手） しかし、此うした 偉人は 甚だ稀であります。

『私は 今二千五百年も昔に遡りまして、此の種の偉人が果して幾人居られるかを數へませう。私は、昔しからの時代の順に指を數へますと、宇宙建設の眞の偉人は、まづピタゴラス、アリストテレス、トレミィ、コペルニクス、ガリレオ、ケブラー、ニュートン、それから我が アインスタ

イン博士であります。(拍手) まだ、こゝに十指のうち、二指が残されて居ます。トレミが建設した宇宙は千四百年續きました。ニュートンも亦宇宙を建設しましたが、其れは三百年續きました。アインスタイン博士も亦一大宇宙を建設せられましたが、之れが果して何年續くものかは、私としては申すことが出来ません。

『人生には二つの大きな動きがありますが、此等の偉人たちは此のうちの一つの大きな動きのリーダーであります。私が二つの動きと言ふのは、一つは宗教、他の一つはサイエンスであります。宗教といふものは、常に間違ひの無いもので、いつも、總ての問題を解決します。宇宙の諸問題を解いて、無くしますから、宗教は常に安定と平和と確實とを齎します。宗教は、私共が望む絶對を與へ、又、私共が皆何物よりも恐れる進歩に對して私共を保護します。

『サイエンスは全く此の反對であります。サイエンスは常に誤りで、一つの問題を解く代りに、同時に十ヶの新問題を起します。(笑聲)。今まで三百年間、私共はニュートンの宇宙を信じて居りましたが、今や大事件が起りました。歐州の中央に一人の若い學者が現はれまして、別に氣が狂つたわけでもなくて、此のニュートンの宇宙説が誤りであると言ひ出しました。全歐洲は大に驚きまして、ニュートンの宇宙に誤りがあるとは？ どうして、そんなことが有るものか！ 其れは全く冒瀆だと叫びましたが、しかし、やつぱり此の學者の方が正しいのでした。

『此の偉人は事實の前に挑戦するものではありません。地球を平たいと信じる人々は、ハイド・パークあたりで、事實の否定をやります。スコットヤードでも、多くの人々は、一生涯事實の否定をしてゐます。しかし、此の學者は事實に挑戦するのではなく、サイエンスの原理に挑戦するのであります。

『アインスタイン博士の業績の背後には、學者の頭腦と云ふものがあるばかりでなく、實に、藝術家の持つ直感といふものがあります。

『去る一ヶ月以内に、私は博士の信仰の告白なるものを承りました。そして、私は非常な印象を與へられました。博士は時間と空間の古い觀念を打ち破りましたばかりでなく、又、同時に新しい宇宙を建設することによつて、新問題を解きつゝあります。』云々。

シヨウ翁のアインシュタイン博士禮讃は、忽ち全世界に傳へられて、今やひろく思想界を賑はしてゐる。シヨウ翁は、上記の八偉人の中でも、特に偉人中の偉人と言ふべきは、ピタゴラスと、ニュートンと、アインシュタインの三人であると結論した。

何れにしても、人類文化の、六千年の歴史に於いて、最も尊むべき誇るべき偉人は、大皇帝に非ず、大政治家に非ず、大將軍に非ずして、實に宇宙觀念の建設者たる人々であり、これ等が皆 天文學者であるといふことは吾人の最も愉快とする所である。

* * * * * *

三 大 學 者 の 宗 教 觀

1930年の思想界を賑はした珍しい宗教論が、われ等の碩學アインシュタイン、エデントン、ジーンズ三博士になつて發表された。アインシュタイン氏の論は或る場所でなされた講演であつて、吾人は未だ其のテキストを見ないが、既成宗教の發達史を批評したものであるらしい。エデントン氏は1928年に發行された著書 *The Nature of the Physical World* が俄かに學界の注目を惹くに至つたのであつて、此の書には、廣く自然界の例證を取りつゝ、主觀と客觀との意味を明瞭に解き、神秘論にまで進んでゐる。更にジーンズ氏のは、最近發表された著書 *The Mysterious Universe* によつて、宇宙創造の機構と、其の唯心的意義とを説いたもので、進んだサイエントテストの胸に畫かれた神觀が示されてゐる。

バーナード・ショウ氏の挙げたる

八大宇宙建築者



- (1) **ピタゴラス** (西暦前580年サモスに生れ、同前
500年南イタリアに死す.)
数理哲學者、同心球天説の創始者、地球の發見者.
- (2) **アリストテレス** (西暦320年スタギラに生れ、同前
250年エウペアに死す.)
最初の綜合理學者
- (3) **トレミウス** (紀元127—151 年頃活躍せるアレキサンドリアの天文
學者.)
天動説の完成者
- (4) **ニコラス・コペルニクス** (紀元1473年トルンに生れ1543年死す)
地動説の創設者
- (5) **ガリレオ・ガリレイ** (紀元1564年ピサに生れ、1642年フィレンツェに死す)
望遠鏡の發明者、天體諸家の發見者.
- (6) **ヨハン・ケプラー** (紀元1571年ギールに生れ、1630年ラチスボンに死す)
遊星運動法則の發見者.
- (7) **アイザック・ニュートン** (紀元1642年ウルストロップに生れ、1727年ロンド
ンに死す.)
宇宙引力説の創説者
- (8) **アルバート・アインシュタイン** (紀元1879年ウルムに生る、現存)
相對原理の創説者